

# 令和7年度学校評価報告書

北海道上富良野高等学校長 森 雅 義

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

- ・幅広い学力層や進路希望への対応を重視した学習活動の実践と、地域や外部組織との連携強化
- ・あらゆる学習活動を通じた、豊かな人間性と社会で生きる力の育成

- (1)主体的・対話的で深い学びを実現する観点別学習活動と評価の充実をとおして、個々が目指す学力の定着を図るとともに、学習意欲を高め、社会で生きる力を育てる
- (2)地域や外部機関戸の連携を基盤とした探究活動・キャリア教育の充実を図るとともに、課題解決のために必要な資質・能力を身に付け、自己実現のために創意工夫を重ね、努力する生徒を育成する
- (3)学校教育活動全般を通して、ルールやマナーを正しく理解し自律する力、自他を理解し他者とつながる力、強くしなやかな心身をもち、正しい判断のもと、自ら行動する力を育てる

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業と評価の一体化」に関する評価が極めて低かった。自由記載欄にはシラバスの様式変更に係る意見や評価時期の見直し、定期考査の在り方への指摘があった。</li> <li>・「探究学習プログラムの充実」について評価が高かった。プログラムが完成し、実施が軌道に乗っていることに加え、組織的かつ教科横断的な学習活動が進んでいる成果と受け止められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校に入学して（させて）良かったと思う」の値が生徒・保護者ともに高い。不登校や低学力層が入学してくる現状を踏まえ、本校での教育活動を高く評価しているとともに、生徒が学校生活に満足している様子が保護者や地域に伝わっている成果と受け止められる。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R8年度は定期考査を実施しないこととする。1年間を試行期間とし、指導と評価の一体的な充実に向けて教務部を中心とした取組を実施する。</li> <li>・探究学習について、一部の教員に負担が偏らない持続可能な形を模索する。R8年度は探究推進委員会を十分に機能させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き生徒が高い満足感をもって学校生活を送ることができるよう、幅広い学力層や進路希望への対応を充実させていく。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒個々に応じた指導体制や支援体制、学習環境を整備する」について教職員の値が低かった。理由としては、個別の支援を必要とする生徒に対してより組織的かつ卒業後を見据えた十分な対応をしていきたいという教職員の課題意識の反映と考えられる。特別支援に関わる校内研修の実施により、課題意識の高まりが影響している可能性もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の基本的な生活習慣の改善」「育成を目指す資質・能力に基づく教育活動」「いじめ防止と適切な対応」について、学校運営協議会委員の評価が低かった。学校として、より一層ねらいを明確にした教育活動を引き続き実践していく必要がある。同時に、「（情報が十分でないため）評価項目については正直判断ができません」「判断の根拠となるものが示されると、評価しやすい」等の意見があることから、判断につながる情報が不十分であったことが推察される。今後に向けての課題である。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R8年度より、通級による自立活動を組織的に行う。これまで放課後に実施することが多かったが、現状を踏まえ、授業時間に行うこととした。サポート委員会を中心に進め、1年後に成果と課題を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より一層ねらいを明確にした教育実践の実施に加え、外部への情報提供を適切に行う。</li> </ul>

<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路ガイダンスの充実」がやや低い評価だった。実施はしているが内容の充実が必要だとの声が一定数ある。具体的には、行事の精選や教員側の運営効率化があがっている。</li> <li>・全ての学年を通じて、資格取得やボランティアに意欲的に取り組ませることができたと評価している。町からの助成を活用し、また、適切な声かけや個別の指導が功を奏し合格者を輩出していることが好循環を生み出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームページやnote、学校だより等で積極的に情報発信している」「地域の方々と連携・協力し教育活動の充実につなげている」の評価が生徒、保護者、学校運営協議会の方々ともやや高かった。掲載内容は、進路指導に関わる教育活動が多く、具体の取組に対する評価といえる。また、日頃から地域とのつながりを意識した教育活動を行っていること、そして今年度特に情報発信を精力的に行った成果と受け止められる。</li> </ul>
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に係る活動の精選を行う。その際、グラデュエーションポリシーを踏まえ、学校として活動のねらいを重視する。</li> <li>・資格取得については、引き続き多くの合格者を出せるよう、適切な指導を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、HPの閲覧数が飛躍的に伸びた。情報発信に一層力を入れていくと同時に、偏りのない内容やnoteの活用も含めた発信方法は引き続き試行錯誤していく。</li> </ul>